

持続可能な社会の実現に資する これからの森林・林業



▲手入れが行き届いた森林内を走るE-MTBツアー

「SDGs（持続可能な開発目標）」や「2050年カーボンニュートラル」など、持続可能な世界や脱炭素社会の実現を目指す動きが世界中で急速に高まっています。中遠農林事務所では、森林の適正な整備・保全を通じ、地球温暖化の防止、生物多様性の保全、木材の生産などの森林の持つ多面的機能の発揮に貢献しています。

森林の公益的機能の維持・増進

「治山事業」や「森の力再生事業」の実施を通じ、森林の適正な整備・保全を図っています

●海岸の森林の保全

中遠地域の遠州灘海岸には、海岸線約40kmに沿って、マツを主体とした海岸林が生育し、飛砂、潮、津波などから私たちの生活を守っています。しかし、近年、松くい虫や潮害により集団的に枯損が進み機能が低下したため、県と市が連携して海岸林の再生に取り組んでいます。また、松くい虫被害の拡大を防ぐため、「松くい虫防除事業」により、薬剤散布による予防や被害木の伐倒駆除によるまん延防止に努めています。



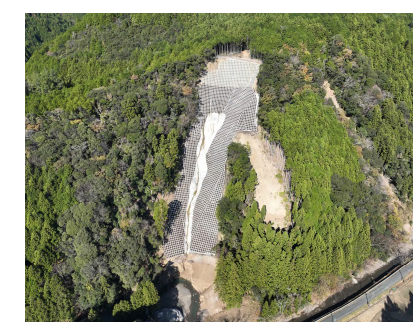
▲県と市が連携し枯損した海岸林を再生（袋井市湊）



▲松くい虫被害からマツを守る薬剤空中散布

●上流域の森林の保全

太田川上流や原野谷川上流などの森林は、水を育み、土砂の流出を抑える働きが期待されています。こうした働きを高度に発揮させるため、「治山事業」により崩壊地の森林への復旧、溪流の保全、森林の健全化を推進しています。



▲崩壊地の復旧（森町三倉）



▲溪流の保全（森町橋）



▲健全な森林への誘導（掛川市萩間）

森林資源の循環利用を担う林業の成長産業化

中遠地域には、スギ、ヒノキ等の人工林が約16,800haあります。再生産可能な資源である木材の利用は、「経済」と「環境」が両立した循環型社会の実現に寄与します。

●主伐・再造林の推進

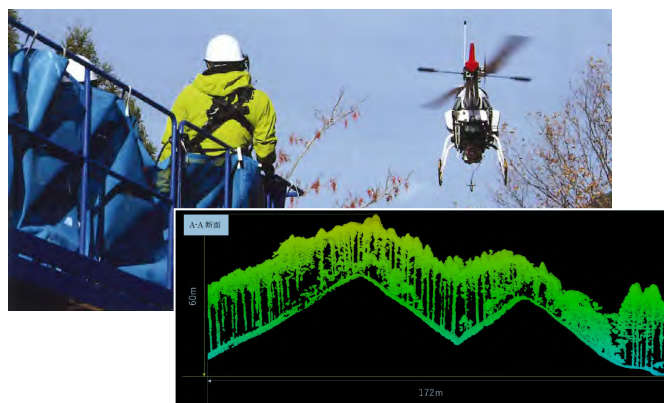
森林資源を継続的に利用するためには、「伐って」「植えて」「育てる」の循環の輪の構築が必要です。このため、森林整備補助事業を活用し主伐・再造林を進めています。



▲再造林の実施（掛川市黒俣）

●林業イノベーションの推進

林業においても、ICTやドローンといった先端技術を導入することで効率化や省力化、安全性の向上などを進める取組が広がっています。



▲無人ヘリによる森林レーザー計測（磐田市万瀬）

●林内路網の整備

効率的な森林整備や木材生産のため、林道、林業専用道、森林作業道の路網整備を行っています。



▲林業専用道を利用した丸太搬出（掛川市原の平支線）

●県産材の利用推進

建築物等への県産材利用は、森林資源と地域経済の好循環につながるとともに、CO₂の貯蔵効果も期待できます。



▲県産材を利用した木造駐輪場（御前崎市立浜岡中学校）

社会全体で取り組む森林づくり

企業等の森づくり活動や森林環境教育の促進を通じ、森林についての理解促進を図っています。また、森林認証制度や認証材の普及拡大を目指します。

●企業による森づくりの促進

しずおか未来の森サポーター制度で企業による森づくり活動を応援しています。



▲しずおか未来の森サポーター締結式

●森林認証制度の普及

管内のFSC認証林は年々拡大しており、県民への制度の普及を図っています。



▲FSCプロジェクト認証を取得した茶草場テラス（掛川市栗ヶ岳）



▲植樹活動（掛川市沖之須）